

自己点検・自己評価報告書(令和5年度)

学校法人 瓶井学園
日本メディカル福祉専門学校 臨床工学科
令和6年4月1日作成

1. 学校の教育目標

最先端医療分野を担うチーム医療のスペシャリストとして、臨床現場で必要となる基礎医療知識及び工学技術を持ち、かつコミュニケーション能力の高い優れた臨床工学技士を育成する。

2. 令和5年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1) 工学の基礎となる基礎理数系科目の理解度を向上させ、自ら考えて問題を解く力を養う。医療系分野においても課題を与えての問題解決能力の向上を狙う。
- (2) 臨床工学技士国家試験および第2種ME検定試験の合格率の向上を狙うため夏休みの補講授業および個人対応やグループ対応などを積極的に取り入れる。
- (3) 医療に携わる者として、また一社会人として必要となるマナーの習得を強化する。
- (4) 有識者や医療施設等の関係者からの意見を取り入れ、より実践的な知識・技能の修得を目指し、授業内容を充実させるとともに臨床現場で活躍する卒業生の特別講義を実施する。
- (5) 学生だけでなく、卒業生・保護者にも、本校の教育に対する理解を深めていただけるよう情報を発信する。
- (6) 教員の資質・指導力を向上させるために、学会や勉強会などへの参加の強化。
- (7) 学生数の減少に伴い、資料請求者への連絡、ガイダンスへの積極的な参加および、学校情報のSNS発信や動画発信を行う。
- (8) 令和5年度においても将来医療人として働く上での感染症対策などを指導していく。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1). 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確認
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1	
学校における職業教育の特色は明確か	④ 3 2 1	
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1	
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に 周知されているか	4 ③ 2 1	
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向け て方向づけられているか	④ 3 2 1	

【総括・特記事項】

- ・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などについて、教職員は熟知し、折に触れ学生に伝えており、対外的にはホームページ、学校案内などに記載しており、概ね周知されている。
- ・保護者に入学式の案内状を送付し、式への列席を促した。令和5年度は感染症対策を実施した上で入学式を実施した。保護者懇談会においても感染症対策を行った上で実施した。

(2). 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				評価委員 確認
目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1	
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1	
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、 有効に機能しているか	④	3	2	1	
人事、給与に関する規程等は整備されているか	④	3	2	1	
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④	3	2	1	
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1	
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1	
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	③	2	1	

【総括・特記事項】

- ・令和5年度も。病院で働く臨床工学技士との連携の強化、外部意見を取り入れた教育内容の見直し、教職員の質の向上及び情報公開に取り組んだ。
- ・定められた運営方針は、管理者会議、学科会議等を通じて教職員に伝達されている。
- ・学校の目的、目標の達成や社会のニーズへの対応のため、各委員会・研修会を開催し、学校運営を行っている。
- ・教育活動等に関する情報公開は、ホームページや学校案内、学生募集要項等で行っているが、ニーズに沿ったものになっているかどうか、適宜見直す必要がある。
- ・ホームページにて「自己点検・自己評価報告書」、「学校関係者評価委員会報告書」の情報公開を行い、「学校案内（パンフレット）」、「募集要項」についてもホームページで閲覧できるようにした。
- ・証明書の発行や卒業台帳の作成、卒業証書の発行などの業務のデータ化が整備され効率化を図られているが入学から卒業までの一元管理に向けて、事務側と教務側で意見交換を行っている。事務側と教務側での連携については、強化が図られており処理はスムーズに行われている。

(3). 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				評価委員 確認
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1	
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1	
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1	
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	③	2	1	
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	③	2	1	
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4	③	2	1	
授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1	
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	③	2	1	
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1	
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1	
人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1	
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	④	3	2	1	
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力 育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1	
職員の能力開発のための研修等が行われているか	④	3	2	1	

【総括・特記事項】

- ・厚生労働省が指定する臨床工学技士養成施設として、法に基づきカリキュラムを編成し、適正に運営されている。
- ・臨床工学技士資格取得は、カリキュラムの上で明確に目標として定められており、取得をサポートできる教育内容になっている。また社団法人日本生体医工学会実施の第2種ME技術実力検定についても推奨しており、夏休みに対策授業を行っている。
- ・指定カリキュラムが大半を占めるため難しい面はあるが、毎年、教育課程編成委員会の意見に基づき可能な範囲内でカリキュラムの工夫・改善への取り組みを行ってきた。とくに平成28年度からは、卒業生による特別講義の実施や、クリニックでの模擬実習（OSCE実習）などを新たにとり入れた。各学年の年間予定にもとづき実施する。
- ・法令により教員資格要件が設定されているため、専門分野の知識について十分なレベルの教職員を確保できている。
- ・各臨床工学技士会、循環器関連、血液浄化関連の学会などにも学生にも参加させた。

(4) . 学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				評価委員 確認
就職率の向上が図られているか	4	③	2	1	
資格取得率の向上が図られているか	4	3	2	①	
退学率の低減が図られているか	4	3	2	①	
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1	
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	④	3	2	1	

【総括・特記事項】

- 臨床工学技士国家試験対策、面接指導等、就職に向けての指導を行っているが、とくに国家試験の合格率が一時期に比べると下がってきている。資格取得に向けての意欲の低下がみられる。令和5年度は3年生に対して、複数教員が日替わりで国家試験対応を行った。
- 令和5年度では1年次で、就学・資格取得への意欲減退の理由から退学者が1名、2年次で進路変更を理由に1名、3年次でも進路変更を理由に2名あった。学生、保護者との連絡の充実、細かな目標設定、卒業生による特別講義の実施など将来像の再確認等を行い、退学者の低減を図る必要がある。
- 令和5年度の臨床工学技士国家試験の結果は50.0%となり、全国平均を大きく下回るで結果であった。留学生が全員不合格になっており、不合格者については聴講生として、特別な講義を行い基礎からの勉強を徹底して行っている。まずは第2種ME検定試験の合格をめざす。また、臨床工学専攻科の授業にも参加してもらい来年度の国家試験合格をめざす。
- 現在多種多様な学生さんが入学しており担任一人だけでは対応するのが困難な状況になりつつある。他学年の担任も含めて教職員全体での対応を行っている。
- 一部の卒業生については、学校との密接な関係を持っている。医療現場で活躍しており、学生が将来像を描く際の良い見本となり、また、学生の就職にもつながっている。平成27年には臨床工学科の同窓会組織を発足し、学校側と同窓会側で緊密に連携を行い学生にとって有益な情報の提供や、特別講義の実施や病院内での模擬実習を行っている。
- 臨床実習時に患者さん対応に困らないように、2年生を対象として12月には卒業生のいるクリニックにおいて、患者さんへの対応を模擬して実習（OSCE実習）を行った。令和5年度も卒業生の方々に参加していただき、臨床実習に行く前に患者さんへの対応での知識と技術を習得する機会を得た。
- 臨床経験豊富な臨床工学技士の教員を令和4年度から招いたことで、様々なシチュエーションでの臨床工学に対する学内実習を行っていただいた。臨床実習前に行った事で、臨床実習で必要な事前知識や考えて行動する姿勢などを吸収することができた。

(5). 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				評価委員 確認
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1	
学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1	
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1	
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④	3	2	1	
課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1	
学生への生活環境への支援は行われているか	4	③	2	1	
保護者と適切に連携しているか	4	③	2	1	
卒業生への支援体制はあるか	④	3	2	1	
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④	3	2	1	
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	④	3	2	1	

【総括・特記事項】

- ・学級担任制により、学生の相談には主に担任が対応し、グーグルのクラスルームを導入したことにより、学生との連絡がスムーズに行えるようになった。また学生と担任とのやりとりを全教員見られるようにしたことで、学生の情報を共有し、対応できるようにしている。
- ・学生が個々に就職活動をするのではなく、学級担任と相談の上で進路を決定する仕組みになっており、進路・就職に関する支援体制は学生にとって充実したものになっている。
- ・成績・出席の状態について学級担任より保護者に連絡しており、特に成績・出席の状態が芳しくない学生の保護者に対しては詳しく状況を説明し、学校側と保護者との連携をはかり、問題を解決するようにしている。また状況によっては懇談や家庭訪問を行うなど適切に対応している。
- ・夜間部に「臨床工学専攻科」を設置しており、大学とのダブルスクール、また看護師、臨床検査技師、診療放射線技師等で就業している社会人もキャリアアップを目指すことができる体制となっている。
- ・令和5年度は社会人出身学生に対応するために、専門実践教育訓練給付金の申請を臨床工学科に行った。臨床工学専攻科についても一般教育訓練給付金からの移行申請を行い給付金の対象となった。また、高等教育修学支援の対象学科として臨床工学科と臨床工学専攻科の申請を行い対象学科となった。

(6). 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確認
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④ 3 2 1	
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 ③ 2 1	
防災に対する体制は整備されているか	④ 3 2 1	

【総括・特記事項】

- ・最新設備の導入・設備のリニューアルについて適切に対応しており、教育上有効に機能している。
- ・実習時等の事故防止の教育体制は整備されている。
- ・非常時における教職員の役割分担を決め、適切な誘導ができる体制をとっている。

(7). 学生の受入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確認
学生募集活動は、適正に行われているか	④ 3 2 1	
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④ 3 2 1	
学納金は妥当なものとなっているか	④ 3 2 1	

【総括・特記事項】

- ・入学事務局、広報担当、広報委員を中心に、全教職員が適切な学生募集活動を行っている。
- ・学校案内、ホームページ等において、授業内容、資格の内容等を示しており、適宜見直し・改良しているが、より正確かつタイムリーに志願者・保護者等に伝わるものとなるよう努める必要がある
- ・令和5年度も引き続きホームページにて「学校案内」、「募集要項」を閲覧できるようにした。
- ・オンラインによるオープンキャンパスを実施したが、申し込みは少なかった
- ・入学選考方法は学生募集要項に明記しており、適切かつ公平な基準に基づき行われている。
- ・入学選考面接は、複数担当者にて実施している。
- ・学納金は、教育内容、社会状況、学生及び保護者の負担感等を考慮して設定され、また本校独自の奨学金制度も利用できるようになっている。
- ・令和5年度より特待生制度を臨床工学科で導入した。4名が受験し、1名が合格している。
1人でも多くの優秀な学生、意識の高い学生の入学を促し、他の学生へ模範となれればと考えている。

(8). 財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				評価委員 確認
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1	
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1	
財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1	
財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1	

【総括・特記事項】

- ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえる。
- ・学校会計基準により財務諸表が作成され、予算と収支管理が行われている。
- ・財務について、会計監査が適正に行われている。
- ・学園ホームページにて、資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表を公表している。

(9). 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				評価委員 確認
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1	
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1	
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	③	2	1	
自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1	

【総括・特記事項】

- ・法令や設置基準等が遵守され、適正な運営を行っている。また各部門において、会議等を行い、より深い理解に努めている。
- ・個人情報保護委員会を設置し、教職員教育を実施している。
- ・自己点検・自己評価を実施し、問題点の改善に取り組んでいる。
- ・令和5年度も昨年度に引き続き、ホームページにて「自己点検・自己評価報告書」ならびに「学校関係者評価委員会報告書」の情報公開を行う。

(10). 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				評価委員 確認
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④	3	2	1	
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	③	2	1	
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	④	3	2	1	

【総括・特記事項】

- ・中学校や高等学校生徒の職場体験の受入れ等を行い、各教育機関や地域との連携・交流を図っている。
- ・ボランティア活動や大阪府臨床工学技士会が主催する職業体験セミナーに臨床工学科1年生が参加した。

(11). 国際交流

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				評価委員 確認
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	④	3	2	1	
留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	④	3	2	1	
留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	④	3	2	1	
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	③	2	1	

【総括・特記事項】

- ・留学生の学習・生活指導等については、学級担任が密にコミュニケーションを取り、学習能力・習熟度・生活状況等を把握している。
- ・令和5年度も留学生の入学志願者が0名であった。これに対し、日本語学科と連携し学校見学会を実施した。
- ・日本語が上達していない学生に対しては、とにかく話かけることを念頭におき、日本語を使う機会を増やしていく

4. 昨年の学校関係者評価委員会の委員の方のご意見から

(1) 退学率の低下について（北野委員）

毎年一定数の退学者は存在する。なかなかゼロにすることは難しい。退学の理由も、本人と学科の不一致、家庭の事情、本人の事情、お金に関する事情など様々です。担任が主にクラスの学生の対応を行います。それ以外の教員も積極的に声掛けを行い各教員間で共有し、学生の変化に気づくよう対応しています。また、問題があった場合保護者にも連絡を取り問題について共有し、学校・学生・保護者と連携を取り問題解決に向けて対応を行っております。

(2) チャット GPT について（北野委員、久下委員）

昨年の委員会でも話題になりましたが、これは一つの問題解決方法として考えております。現在の学生はスマートフォンの普及により、各種の問題でつまづいたとき、考える力が低下してきていると考えています。スマートフォンなどを用いて答えを求めることだけに必死になっており、問題を解く過程を重要視しておりません。自分の頭で考え問題を解く力を身につけてほしいところから、本科ではチャット GPT については一つの答えを確かめる道具として考えております。

(3) ボランティア活動に関すること（太田委員）

令和5年度については、大阪府臨床工学技士会の主催する職業体験セミナーに参加した学生がいたが、今後も学生に向けて呼びかけを強化し、行くだけでは意味がないので参加したことによりどのような成果があったかを考えてもらいたいと考えている。

実際にボランティアに参加した学生からの話や体験談を他の学生にも聞かせるようにし、活動を拡大できるようにしたい。

(4) 学校関係者評価委員会のジュニア版について（久下委員）

卒業後2年～5年の卒業生の話を聞く機会は非常に重要と考えております。このことに関して卒業生に声掛けを行いました。2年目～3年目は業務をこなすのに精一杯で、4年目～5年目になると仕事にもなれ別の業務が増えていく状況にあって大変な部分はある。しかしながら協力していただける卒業生は一定数おり、複数人数は難しい部分はあるが、各校、各学科で調整を行えば開催することは可能であると考えている。

(5) 学校運営について (久下委員)

実際には一部の教員歴の長い方への業務集中になっている点は多く散見されます。この問題を打開するため、集中している業務を振り分け、他の教員にも行ったことがない業務を順番に振り分けている。ただし、教員によっての負荷のかかり方によるストレスなどもあるので、状況を見ながらコミュニケーションをとりながら仕事の割り振りを行っている。

(6) 臨床工学技士養成校な定員割れ (檜村委員)

現在臨床工学技士養成校は全国的に定員割れか、定員に達している学校も第1希望で入学する学生が減少している。臨床工学技士の仕事の魅力ややりがいなどをSNSで発信していくことや、高卒の学生だけでなく、留学生も視野にいれた人材を確保できるようにしたい。また、昨年度より特待生制度を導入し、優秀な学生の確保を行うとともに、他の学生の模範となる人材を一人でも多く入学させたいと考えている。

5. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

(1) 教育理念・目標

学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などについて、教職員は熟知し、折に触れ学生に伝えており、対外的にはホームページ、学校案内などに記載しており、概ね周知されている。

(2) 教育活動

・令和5年度も臨床工学技士として臨床経験豊富な教員を招き、3年生など臨床実習前に必要な内容の講義や多くの医療機器や医療機器点検器具を取り入れ、様々なシチュエーションでの学内実習を行っていただいている。実習前に必要な事前知識の習得に役立つ内容になっている。

・国家試験対策としては、留学生全員が不合格となり改めて留学生の対応について再度方法を見直し、個別対応を含めた対策の強化が必要である。

・臨床実習時に患者さん対応に困らないように、2年生を対象として12月には卒業生のいるクリニックにおいて、患者さんへの対応を模擬して実習（OSCE実習）を今年度も行った。令和5年度も卒業生の方に参加、指導していただき、臨床実習に行く前に患者さんへの対応での知識を習得する機会を得た。

・令和5年度より、臨床現場で活躍する卒業生による特別講義を再開、実施している。また、臨床工学に関する最新の研究やトピックスなどを学ぶため、学生の学会参加や勉強会参加についても令和5年度より再開し行っている。

・令和5年度からではあるが、1年生については、午後の授業の空いた時間を利用し学校の周辺の散策を担当とクラス全員参加で行い、自然にお互いにコミュニケーションをとる機会を設けた。また補講授業についても放課後行っている。

・例年1年生を対象として病院見学をおこなっているが、大人数での病院見学が新型コロナウイルス流行後は難しくなっている。クラスの班分けを行い、少人数で複数回の見学が可能な病院を卒業生のいる病院を含め探している。

(3) 学修成果

・令和5年度は2年生に対して早い段階から第2種ME検定試験に対しての重要性について話を行い、対策講義を夏休み中に行った。2年生の段階ではあまり合格者が出ていなかったが持続していく

・臨床工学技士の国家試験に関しては6名の不合格者がでてしまい、全国平均を大きく下回った。このことを反省し、早い段階からの意識づけと国試対策授業を行っていく。また、各学生の特徴や性格を把握し、個人に対しての。個別対応を行い何に困っているかなどを把握し対応を行っていく。

・退学者についても3学年で4名出たところから、日頃からの声かけ、挨拶、学生の少しの変化での教員間の情報の共有、面談の実施、保護者への連絡など対策を強化している。

(4) 学生支援

・令和5年度は社会人出身の学生について専門実践教育訓練給付金の対象に臨床工学科、臨床工学専攻科になった。また、高等教育修学支援の対象学科として臨床工学科と臨床工学専攻科の申請を行い対象学科となった。

・令和5年度より臨床工学科を対象として「特待生制度」を導入した。成績優秀な学生、意識の高い学生の獲得のため本制度を設定した。4名が受験し1名が合格している。

(5) 教育環境

臨床工学科の新カリキュラムに向けての医療機器の投入を考えている。新しく臨床経験豊富な教員を招いた際に病院で使用していた医療機器や医療点検機器を多数導入していただいた。それに伴い学内での実習については様々なシチュエーションでの実習が可能になった。また、社会人になってからの医療職での重要な考え、技術など学ぶ機会が増加した。

(6) 学生の受け入れ募集

学校案内、ホームページ、SNS 等において、学校での授業内容、資格の内容、行事などを情報発信や動画作成を示しており適宜見直し・改善しているが、よりたくさんの方々に見ていただくようにしなければならない。また高校のガイダンスについても積極的に参加し、直接高校生と話しを行うことで学校自体を知ってもらえるきっかけになればと考えている。

(7) 社旗貢献。地域貢献

臨床工学科1年生が大阪府臨床工学技士会が主催した職業体験セミナーに参加し、大阪の大日イオンにてたくさんの方々に参加の呼びかけを行い、臨床工学技士の仕事の説明、扱う医療機器の説明などを行いました。

(8) 国際交流

令和5年度に関しても留学生の入学者がゼロであったため、令和5年度は日本語学科で連携して学校見学会を実施した。9名の学生さんが参加していただき、学校説明、設備見学などしてもらいました。

令和6年度以降も継続し、臨床工学技士の仕事をアピールしていく予定である。

令和6年度の目標

令和6年度においては、見て、聞いて、考え、自分の意見を言える学生さんを育てることを目標としたい。そのためには教員によっては考え方をすこし変えていただく必要がある。まず一歩として専任教員の先生方に授業の工夫も踏まえ近年不足している学生さんに考える力をつけていただくような授業方法について手探りであるが実施していく。また、最終的に医療の世界で働く上での社会人として身につけておかなければならない接遇や態度、技術の習得なども実施する。

また 実習では学内実習の充実を始め、民間救急会社による救急蘇生実習の実施、引き続きOSCE実習の実施、各実習病院での臨床実習を通じて実際に見て、聞いて、学ぶ機会を増やす。

卒業生による特別講義の実施、臨床工学技士会の地元で実施する勉強会や学会への参加、卒業生の実施する研究会への参加などを計画している。

国家試験対策やME検定試験対策講義、やる気のない学生への対応、個人対応や面談の対応、とくに留学生の対応などを強化していく。とくに国家試験の結果が数年、全国平均を下回っているので回復できるよう努力していく。

地域中学の文化祭テーマの実施に関する協力や日本語学科を含む留学生の方々にも学科での説明会や個人対応などを行い、本学科を知ってもらうきっかけになり、最終的に入学につながればと考えている。